

# 製本のススメ

Vol. 144

梅雨入りしたはずですが、毎日お天気で既に夏の気配すら感じられます。さりとて まだ真夏のような蒸し暑さではないので日陰に入れば、穏やかです。でも、食べ物は傷みやすいですから 十分に注意してください。

今回は**製本予備枚数はどのくらい?**の話し

昨今 価格も厳しくなり ふんだんに加工予備を付けられなくなって来た事は 印刷加工の現場でも理解しています。しかし 物を作り出すのには【調整】という作業が**不可欠**です。いくら高性能の印刷機であっても 色調整のために100枚や200枚では済まないように 製本も各工程で調整作業が行われますので、たとえ出来本が100冊であったとしても 工程数の多い製本作業の場合 150枚以上の予備は欲しい所です。

さて最近オンデマンド出力という場合が多く 予備が極めて少ない場合があります。このオンデマンドで出力された用紙は、極めて扱い難くオフセット印刷のように加工できません。そのため不良も多く出てしまいます。加工し直せるものは良いですが機械トラブルの場合には使えなくなります。最悪の場合 実数割れになってしまうこともあり、製本業界では頭の痛い問題です。

さて一般的には1%~3%の加工予備枚数とされていますが、それは1万冊以上の場合であり それ以下では5%~20% さらに**少部数では 実数よりも多い場合も発生**します。この場合には加工する製本会社と十分に打ち合わせをしてください。特にオンデマンド印刷では折加工が難しく 加工を受けられない場合もあります。

そうは言ってみても限りある予算ですので、多くの予備枚数をつけられない場合には、**不良が出やすい個所だけ予備枚数を多くする**という考え方もあります。たとえば 貼り込みが有る場合にはハガキと貼られる折丁台や表紙は 枚数を多めにすると他の工程では 損紙枚数を減らすことができます。折り加工などでは印刷の損紙分を調整にあてることもできます(但し見当が合っている物に限る) また実数以外の数量(員数外納本など)も、**予備枚数外として計算**してください。

次回は 予備枚数のパートII「だから予備枚数が必要です」を お届けします。



## Tea break

製本会社ですと言うと「本作ってるんですね」と言われます。当たり前ですが 実は本を作るには下流に多くの加工会社があり光沢加工や箔押し・製函や表紙貼り 型抜き等の紙工類など 様々な加工を組み合わせるのも重要な仕事の一つです。

弊社 HP は [www.isekiseihon.com](http://www.isekiseihon.com)

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本